



公開シンポジウム

自然の恵み「生態系サービス」をどう報道するか

主催：日本環境ジャーナリストの会（JFEJ）

協力：早稲田環境塾／地球・人間環境フォーラム

2010 年の生物多様性条約第 10 回締約国会議（COP10）をきっかけに、一般にも少しずつ知られるようになった「生態系サービス」という新しい概念。

「生態系から生まれるさまざまな自然資源から人間が恩恵を受けている」という、この新しい考え方を、ジャーナリズムはどのように伝えていけばよいのでしょうか。

日本環境ジャーナリストの会（JFEJ）では、地球環境基金の助成を受けて、2011 年から「生態系サービスをどう報道するか」をテーマに、取材・研究を続け、過去 2 回のシンポジウムなどを通じて活動報告をしてきました。

今回はその総まとめとして、新聞、テレビ、雑誌、ウェブなど各メディアで実践してきた取材報道の報告と成果を広く共有するために、公開シンポジウムを開催いたします。

活発な意見交換の場にしたいと思っています。ぜひふるってご参加下さい。

開催日時：2014 年 1 月 22 日（水） 午後 7 時半～9 時（7 時開場）

開催場所：日本プレスセンタービル内 9 階、日本記者クラブ小会議室

住所：東京都千代田区内幸町 2-2-1

交通：千代田線・日比谷線「霞ヶ関駅」C3 イイノビル出口から徒歩 2 分

丸ノ内線「霞ヶ関駅」B2 日比谷公園口から徒歩 5 分

銀座線「虎ノ門駅」9、10 番口 新橋方面出口から徒歩 7 分

三田線「内幸町駅」A6、A7 日比谷公園口から徒歩 2 分

JR「新橋駅」日比谷口から徒歩 10 分

地図：<http://goo.gl/maps/568jG>

資料代：500 円（JFEJ 会員は無料）

申込方法：JFEJ 事務局にメール（ask@jfej.org）または FAX（03-5825-9737）で

以下の必要事項をお送りください。定員になりしだい締切といたします。

◎氏名（ふりがな）、所属（勤務先／学校）、連絡先（電話／メールアドレス）



【プログラム】

開催あいさつ 佐藤 淳（読売新聞／JFEJ 会長）

＜取材活動報告＞

◆「有機農業と循環社会の実現 ～小川町を例に～」

金 哲洙（日本農業新聞／JFEJ 副会長）

早くから有機農業に取り組み、農業研修者受け入れや農業者大学、就農準備校の講師、サポートなどを手がけてきた小川町の金子美登さん。これまでに、多数の人びとの受け入れを通じて、有機農業と循環型社会の実現に尽力してきた活動を紹介します。

◆「映像メディアで伝える“生態系サービス”～身近な問題として考えるために～」

堅達京子（NHK プロデューサー／JFEJ）

2010 年開催の COP10 の際に、「SAVE THE FUTURE 科学者ライブ」という番組を通して、“生態系サービス”という難しい概念をわかりやすく伝えた試みからの知見や、NHK の番組「里山資本主義」シリーズの展開、NHK エコチャンネル（ウェブ）や新書などを通して見えてきた、暮らしや価値観、地域再生の課題として伝えることの大切さをお伝えします。

◆「生物多様性のまちづくりを書く」

水口 哲（ジャーナリスト／JFEJ 理事）

ヒートアイランド、アレルギー人口の増加、大気汚染。都市生活に随伴するこれら 3 つの問題解決策として、生物多様性のまちづくりが欧州で始まっている。まちづくりの観点から、生物多様性を報道した経験と今後の可能性を説明します。

＜パネルディスカッション＞

◆「生態系サービスの報道手法 ～利根川流域を例に～」

司会進行：高田 功（集英社インターナショナル／JFEJ 副会長）

パネラー：金 哲洙（日本農業新聞／JFEJ 副会長）

堅達京子（NHK プロデューサー／JFEJ）

水口 哲（ジャーナリスト／JFEJ 理事）

総 括

原 剛（早稲田環境塾塾長）